

中小企業技術者と共に創る レッツラーン大学校 in 京都南部 の構想について

2012. 1. 25

特定非営利活動法人
学習開発研究所
西之園晴夫(nisinohr@u-manabi.org)
堀出雅人(horide@ks-pl.org)

1

「生涯職能学習社会」での大学校

- 中小企業の技術力向上の支援＝技術者
あすの日本の産業を担う技術者の学びを積極的に支援する
- 中小企業に経験豊かな人材を＝求職者
失業や生活保護生活から抜け出て、経済的に自立するために新しい職能を習得することを支援する
- 中小企業に若い頭脳を＝学生
中小企業に就職することを希望している学生を支援する

中小企業を支援する (NPO) レッツラーン大学校

レッツラーン大学校の活動を支援できる関係諸団体・機関

- ・地域住民
- ・地域産業関係者
- ・市町村行政
- ・生涯学習／雇用問題関係者
- ・産業振興関係者

- ・中央職業能力開発協会 (JAVADA)
- ・ハローワーク

- ・大学・研究所
- ・高等専門学校
- ・職業高校
- ・ポリテクカレッジ
- ・職業能力開発大学校

- ・民間教育訓練関連機関
- ・学習サービス業

財政支援

一般財団法人
レッツラーン大学校
助成基金

2013年4月立ち上げ(目標)

学習内容・評価基準・監査

一般社団法人
レッツラーン大学校
評価監査機構

2012年3月立ち上げ

財政支援

レッツラーン大学校の運営を支援する法人

学習内容・評価基準・監査

一般財団法人
レッツラーン大学校
助成基金

2013年4月立ち上げ(目標)

一般社団法人
レッツラーン大学校
評価監査機構

2012年3月立ち上げ

「『働く』を創る」学び場

レッツラーン大学校を運営する法人

NPO法人
レッツラーン大学校
in 京都南部

2012年5月開設

NPO法人
レッツラーン大学校
in 京都市中北部

NPO法人
レッツラーン大学校 in
他府県(東北地方)

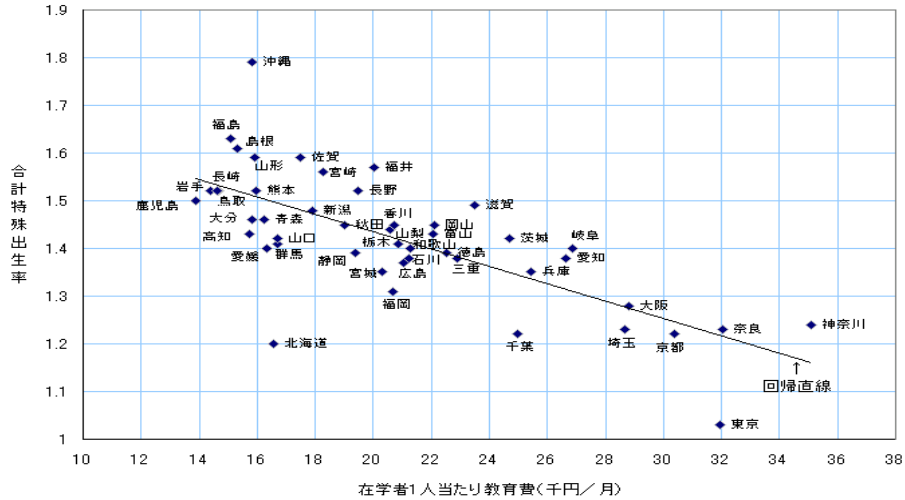
レッツラーン大学校
連絡協議会

学び場づくりを支援

NPO法人
学習開発研究所
(既設)

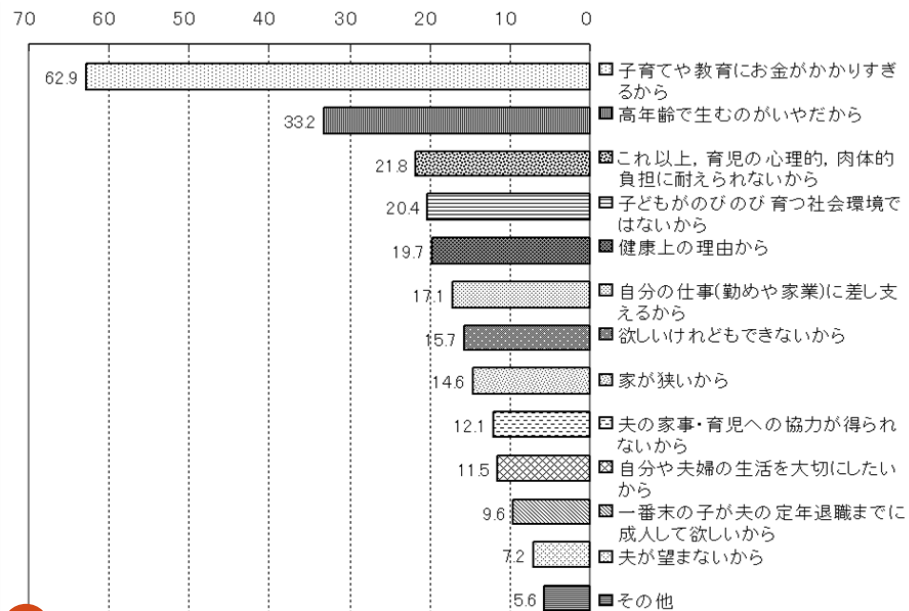
教育費と合計特殊出生率との相関(1999,社会実情データ図録から)

教育費の高さと合計特殊出生率の相関(1999年)

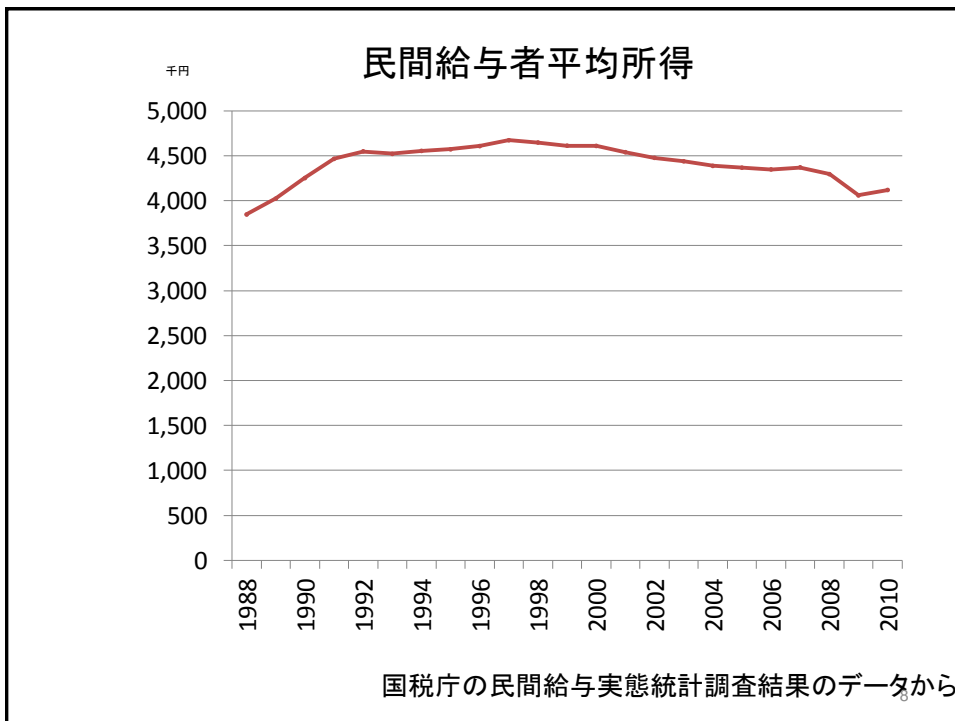
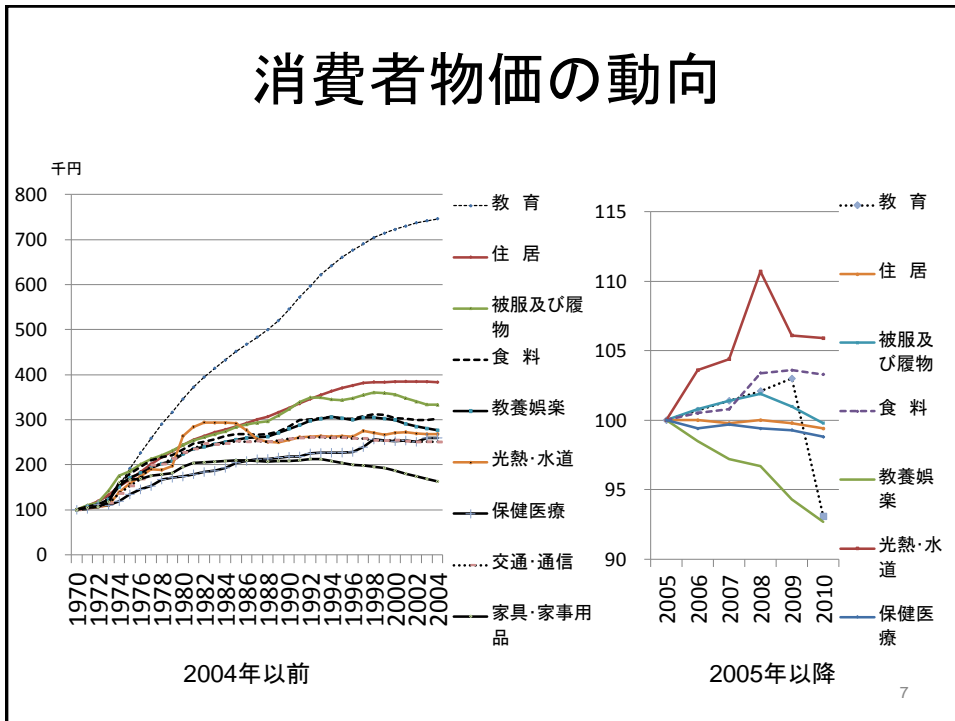


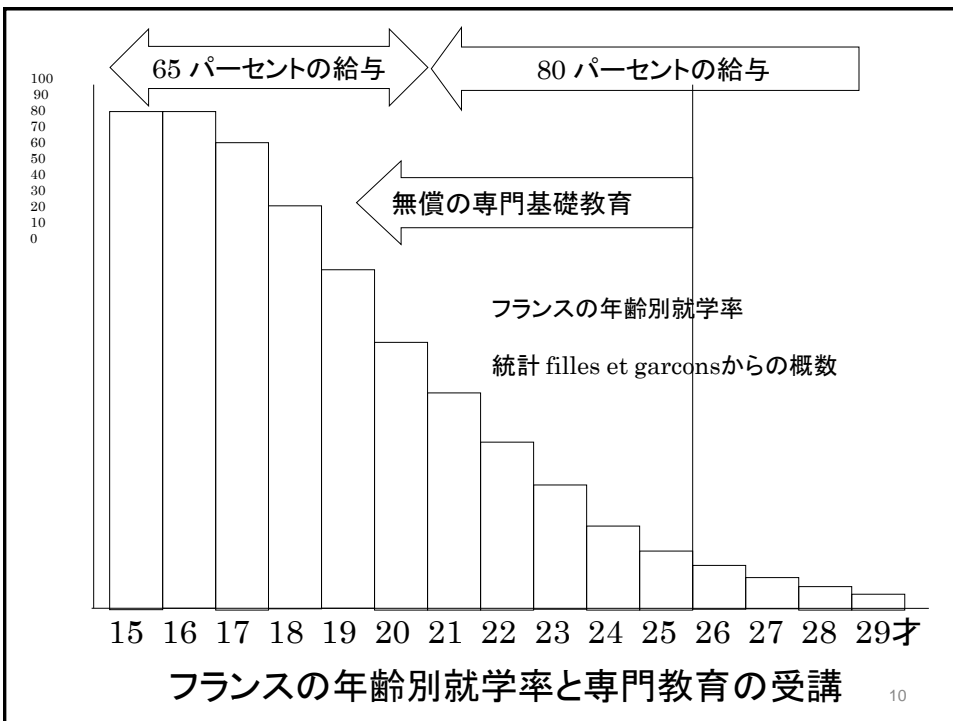
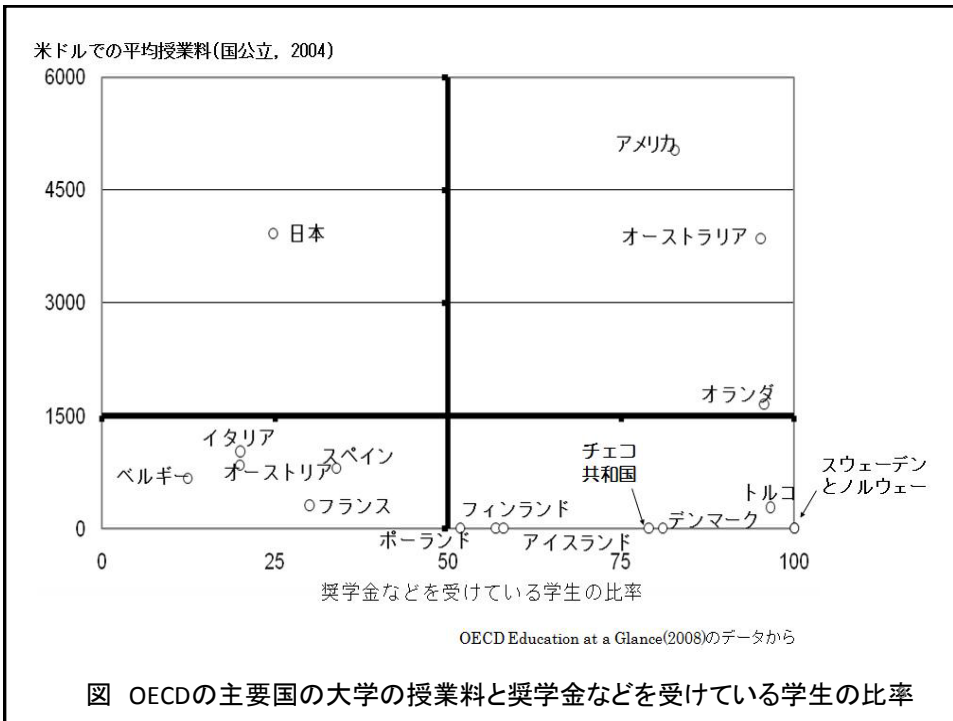
(注) 在学者1人当たり教育費は2人以上の一般世帯の教育費を平均在学者数(幼稚園から大学、及び専修学校)で割った値。
 回帰分析結果は、 $y = -0.00001822 * x + 1.7997$ ($R^2 = 0.5193$)
 y : 合計特殊出生率, x : 在校生1人当たり教育費(円)
 (-6.97) (32.13) カッコ内はt値
 (資料) 厚生労働省「人口動態統計」、総務省統計局「全国消費実態調査」

現状よりも子どもの数を増やしたくない理由



国立社会保障・人口問題研究所「第12回出生動向基本調査」(2002(平成14)年)

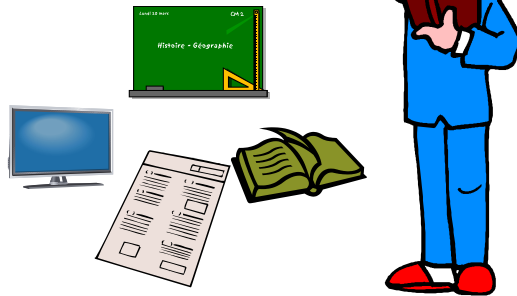




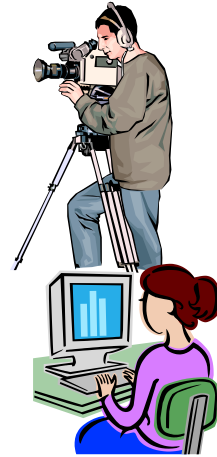
自習できる教材の制作

講義のメディア化

シンボル
(文字、記号、図、数式)



制作クルー



11

さまざまなメディアを活用した学習

シミュレーション・Web



メディア化された授業
シンボル



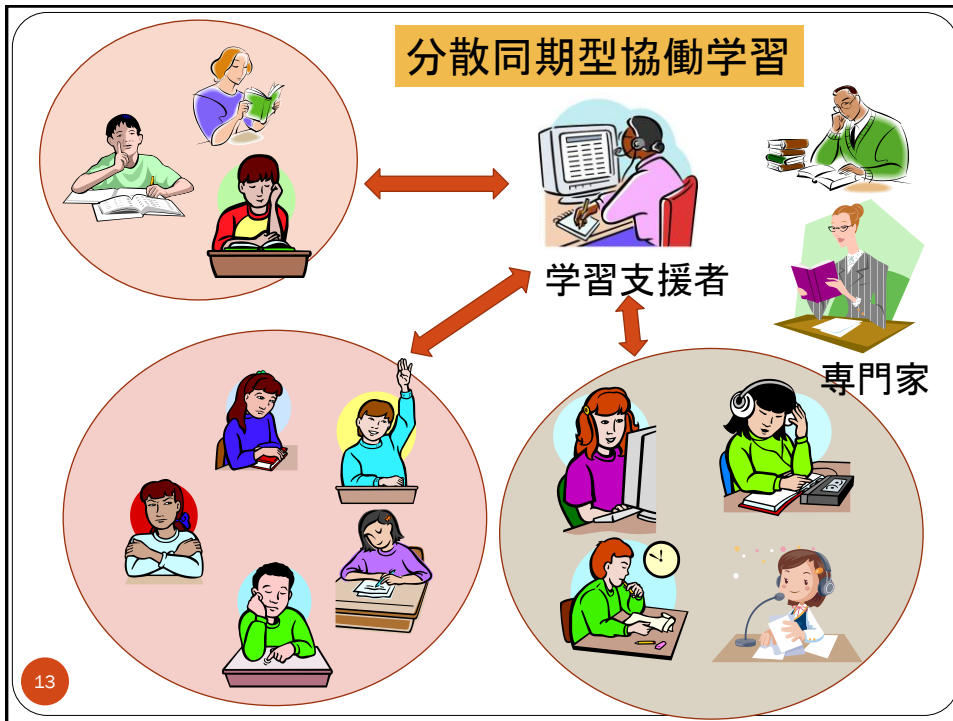
教科書・参考書



学習プラットフォーム



12



学習のスタイル

- ①分散同期型協働学習
自主学習→協調自律学習からの発展
- ②インターネットを利用してのコミュニケーションの可能性を最大限に活用する
- ③独習するときにスマートフォンやタブレットPCも含めてさまざまな資源を活用する

高校数学：金沢工業大学中村晃准教授の検索型教材
KIT数学ナビゲーション<http://w3e.kanazawa-it.ac.jp/math/>

14

学習クラスの編成と評価基準

① クラス編成

(就業者：求職者：学生 = 1 : 1 : 1)

2 × 3 × 4 = 24名

3名 × 8グループ

4名 × 6グループ

6名 × 4グループ

② 評価基準

中央職業能力開発協会(JAVADA)

業種－職種－職務－能力ユニット

国際規格 ISO 29990(学習サービス)

15

学習の展開(1)

1. 学習のウォーミングアップ

① 自然な感情を表出できる雰囲気作り

アイスブレイキング、さまざまなゲーム

② 異なる考え方や見方の尊重

価値観や基本的問題を問う課題の討議

個性と我はどのように違うか？

エレクトロニクス産業を活性化する具体的な方策は？

③ 目標を共有することを目指す

各自が自分に適した目標を設定し、それをお互いに理解する

16

学習の展開(2)

1. 予習することを前提として疑問を持ち寄る
 - ① 疑問点についてお互いに確認
 - ② 演習問題を解いてお互いに確認する
 - ③ どうしても解決しないときは専門知識についての助言者に助言を求める(ネット利用)
2. 学習方法についての経験を交流する
参加者各自が異なる学習方略をもっているなのでその経験を交流する
3. 理論の学習と実験・簡単な実習を交互に行う

17

学習コスト

①公式学習のコスト

4年間124単位 $124 \text{ 単位} \div 2 \text{ 単位/科目} = 62 \text{ 科目}$

4年間授業料 国立大学

$$535,800 \times 4 + 267,900 = 2,411,100$$

$$2,411,100 \div 62 = 38,888 \text{ 円/科目}$$

②不公式学習の学習コスト(レッツラーン大学校)

分散同期協働学習 1科目 2時間×12回=24時間

20,000円 持続不能

30,000円 3年目で年間収支ゼロ 開発費4年目から回収

40,000円 3年間で開発費を含めて収支バランスゼロ

無償 各種の支援、地域住民の支援、関連業界

ビジネスモデル=地域商店街との協賛

18